

町政を問う!

一般質問

来年度の
予算編成に
関わって

木村好孝 議員

平成25年度の予算編成にあたって、第5期総合計画で課題としてあげられている「資源循環型のまちづくり」の推進には、地域経済循環型、地域内再投資力を重視した施策や、予算編成が必要だと思われるが、次の提案に対する考えを伺う。

① 農業の付加価値化と連携した町企業への仕事と雇用創出を重点とした、中小企業振興基本条例制度に向けた検討をすべきと

考えるかがかか。
② 当面、小規模修繕登録制度や住宅リフォーム助成制度について取り組むことができないのか伺う。

高薄町長

① 中小企業振興基本条例の基本的な考え方としては、雇用確保や所得の向上、産業経済活動の活性化であり、町民生活に密着したものである。町として、地域活性化を目指し、地域経済にとって効率のよい事業を取り入れながら、主体的に取り組むべきと考えている。
道内では6市5町が条例を制定し取り組んでおり、これらの先進事例を参考にしながら、調査研究を進めていく。

② 本町の場合、現在建設工事等は、町の財務規則により、原則130万円以上の工事等は入札で発注しており、それ以外については、地元業者2社以上で見積もり合わせを行い、随意契約で発注している。

高薄町長

今後、町として、広く町内事業者に受注の機会を設けられるよう、小規模修繕登録制度についても検討を行っていく。
また、住宅リフォーム助成制度については、耐震化の改修等のほか、水洗化や太陽光発電なども含めたなかで、質問の趣旨に沿えるような内容の制度を、現在検討している。

通学路の
安全確保は

佐藤幸一 議員

警察庁の統計によると、登・下校中に交通事故で死亡した全国の児童数は、昨年1年間で2485人のほり、特に低学年になるほど事故に遭いやすいというデータが出ている。

① 通学路の安全点検はどのようにして実施しているのか。また、本年度の点検結果はどうだったのか。
② 通学路の安全確保のための工夫として、例えばスクールゾーンがあるが、現在はどうなっているのか。

③ 子どもを守るためには、安全教育のみでは限界があると考ええる。事故の多くの原因は安全運転義務違反にあるといわれており、ドライバーに対する啓発対策の現状を伺う。

高薄町長

① 本町の場合、各学校とも通学路を指定しており、毎年、定期的に安全点検を実施している。今年度も5月に警察や地域住民などとともに点検を行い、横断歩道や信号機が必要と判断した箇所については、釧路方面公安委員会に設置を要請している。
また、町生活安全推進委員会、安全マップを作成して各家庭に配布し、通学

路における危険箇所の周知もしている。
② 安全確保のため、交通安全専門員を配置しているほか、ボランティアとして清水っ子見守り隊などにも協力をいただきながら、交通安全指導などを実施している。

高薄町長

③ ドライバーへの啓発対策として、公用車等に赤色回転灯を設置し点滅させて注意をうながすレッド作戦を実施することにより、交通安全に対する意識を高めたいと考えている。

